

西四国所報 186 号 2024 年 7 月 31 日

編集者 清水真一

予土国境の大草履吊り(1) 鬼北町上川本村の草履吊り

十亀 幸雄

はじめに

鬼の金剛は、小正月の1月16日に大草履を吊した注連縄を集落の入り口にあたる道や川に渡して張る村祈禱(むらきとう)である。この行事は、愛媛県の中予、南予にみられ、東予ではほとんど見られないといった地域的な分布の偏りがある。県外における鬼の金剛類似の行事については、隣県の高



知県でも幡多郡、高岡郡を中心に西部に多数がみられ、草履吊りの名称でしばしば虫送りや習合している(田中孝子 2023 年)。集落に侵入しようとする悪しき靈魂や疫病を追い払うための対抗呪術である。

2024 年には、愛媛県教育委員会がすすめていた愛媛県の祭り・行事調査の報告書(愛媛県教育委員会 2024 年)が刊行され、その中で、鬼北町内で3例の大草履地理がなされており、その1つの鬼北町上川(かみかわ)の大草履吊りを知った。

1 上川の草履吊り

上川本村の草履吊りは、愛媛県北宇和郡鬼北町上川本村の念仏の口開けの行事である。上川は、四万十川支流の広見川が三間川と合流する手前の河岸段丘上にある集落で、山間地ではあるが水田が広がっている。片側1車線の大きな県道320号線沿いにあり、東に橋をわたると往還道につきあたって集落に入る、上流側に左折して往還道に入る。交通の便はよい。

上川本村は、広見川左岸に南北に広がる集落で、北方に宮野々の集落があり、それとの境